

# 網張ビジターセンター ニューズレター



Vol.61  
2015.7

ほとんど光りませんがホタルの仲間です



(オバボタル)

(カクムネベニボタル)

(クロマドボタル)

日中、お会いしましょう☆

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

\* 網張の森の生き物たち \*

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## 昼行性のホタルの仲間

春先の気温の急上昇で「今年のヒメボタルの発生は早いかも？」との話もちらほらと出ていましたが、暗闇と湿った森に棲むヒメボタルは今年も例年同様、7月11日頃から発生し始め、まばゆいフラッシュの点滅で真っ暗な森の中を神秘的な空間に演出してくれました。ところで“ホタル”と聞くと発光するイメージがありますが、実はほとんど光らないホタルの仲間も意外と多く、日中の網張の森でも草の上などで見かけることがよくあります。クロマドボタルやオバボタルのように幼虫の時などにわずかに発光したり、ベニボタルの仲間のように外敵から身を守るために体内に毒を持っていたり。毒のない別の昆虫がそのベニボタルを真似た形をしているなど、ひとこと“ホタル”と言ってもバリエーションに富んだ昆虫ということがわかります。太陽の下で光らないホタルに会ってみませんか？

What is “Obabotaru”  
“Kakumunebenibotaru”  
“Kuromadobotaru” ?

「日中活動するホタルの仲間」

ホタル科 (オバボタル、クロマドボタル)  
ベニボタル科 (カクムネベニボタル)  
体長：7～12mm 前後  
分布：日本全土 (オバボタル)  
本州～九州 (カクムネベニボタル)  
本州・四国 (クロマドボタル)

わずかに光る種類もあるが、発光ではなく主にフェロモンで交信するため触角が発達している。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



犬倉山と鎌倉森を一望できる

散策路を5番に進むと、そこはもう網張温泉スキー場。一気に展望が開けます。このスキー場は国立公園内にあることも考慮し、自然の地形には手を加えず、変化に富んだコースとして人気があります。

# 網張の森 セルフガイド



**ダケカンバ** 夏の網張スキー場は一面緑に覆われ、熱気を帯びて湧き上がる雲と空の青さを間近に感じることができます。ここで生い茂る樹木をよく見ると、白っぽいオレンジ色の樹皮をもつダケカンバが多いことが分かります。

この木は白樺の仲間で、少し標高の高い山から高山にかけて生えています。特に日当たりを好み、樹木が伐採された跡などにいち早く芽を出して成長します。ハンノキなどと共に、パイオニアプランツ(先駆樹種)とも呼ばれます。条件の良い森の中では巨木にまで成長しますが、高山のような厳しい条件では、グニャグニャと曲がりくねった低木に育つこともあります。



グレンデの縁を取り囲むカンバ群



展示コーナーにあります→



若いダケカンバの皮は、薄くはがれます。紙が貴重だった時代は紙の代わりに使っていました。



秋になると遠目でもダケカンバの樹肌を確認できるようになります。



昨年秋のグレンデの様子

# Amihari Birds

アミハリ・バース vol. 4

## イワツバメ

科名:ツバメ科  
全長:約 13cm  
生態:夏鳥  
分布:九州以北



イワツバメは白と黒のコントラストが美しい鳥です。夏空の中、群れを成し猛スピードで虫を捕食する姿を、網張スキー場などで見ることができます。

休暇村の正面玄関には、泥と植物でできた巣が5~6個あり、春にはヒナの丸い頭を見ることができました。しかし6月の下旬、巣の一部は壊され、ヒナたちもいなくなっていました。



右側が破壊された巣

休暇村のスタッフに聞くと、カラスに襲われてしまったそうです。生きぬくってほんとに厳しい！空き家になった巣には、スズメがちゃっかり入居し子育てを始めました。イワツバメにとっては残念な結果でしたが、今しばらく網張で過ごし、秋には南へ渡っていきます。

## 来年、国立公園編入60周年を迎えて今は昔・・・ 網張近辺 今昔ものがたり

十和田八幡平国立公園の南端に位置し、古くから湯治場として、また岩手山の登山基地として栄えてきた網張近辺。今ではスキー場、ペンション、休暇村、ビジターセンターなど近代的な施設が整備され、四季を通して訪れる人達を迎えています。その反面、一昔前はどうかを知る人も、だんだん少なくなってきました。

昔の様子を知る人を探し出し、お話を聞くプロジェクト第二話は、国立公園指定前後に登山道や避難小屋の整備に活躍した地元、雫石町の裏岩手山岳会の初期のメンバーです。

### 第二話 ・ ・ ・ 雫石町の裏岩手山岳会 瀬川冬吉(旧姓、矢筈)さんのお話 ・ ・ ・

#### 「当時の若者は純情でした・・・」

「昭和8年の生まれです。山に登り始めたのは、学校が終わってからですから昭和23年頃だったと思います。」

「当時の網張の記憶と言えば、大きな松(注1)と桜(注2)があったことです。篠川原の橋の手前にバス停があって、そこから山道を登って行きました。村上三郎さんが経営していた時で、ほとんど湯治客ばかりのところへ登山客が少しずつ来るようになっていました。」

「その頃の網張登山道は有根沢から入って正徳沢との間の尾根を真っ直ぐ登り、黒倉山南側の笹小屋跡(注3)に出るコースでした。

そこから大地獄谷に降りると北側の七滝から来る道があって、湿原を通り不動平へ登って行きました。」

「鬼ヶ城のルート開拓に参加したのが昭和31年頃でした。誰も歩いてないところでハイマツの間に大きくて立派なシャクナゲがあちこちにありましたが、その後、採っていく人がいて大分少なくなりました。ルートづくりは最初に誰か木に登って大体の方向を決めるのです。それから太い木をよけながらナタとカマだけで切り開いていきました。」「食事の時は米を飯盒で炊くのも火を起すのが大変、ダケカンバは生木でも良く燃えてくれたので助かりました。味噌を持って行って、そこらに生えているアザミを入れてつくった味噌汁はおいしかった。」「余談になりますが、マムシのキモは生で食べたし骨も軟らかかったけど、シマヘビやアオヘビ(注4)の骨は硬くてそんなにおいしくありませんでした。」「寝る時は、どうやって寝たのかな？ 米軍放出シュラフも高くて手が出なかったし、そのままゴロンと寝ていたんでしょね。登山靴も無く地下タビでした。ヤッケを着たのは、昭和33年に起きた八幡平雪山遭難の捜索の時が初めてだったんですよ。」「三ツ石山荘(初代)を建てることになって資材は全部、地元の私達が背負って現場まで担ぎ上げました。2間(注5)の柱を背負って登るのは本当に大変でした。今思えば、山が好きだったからできたのだと思います。」「烏帽子(乳頭山)の頂上まで上がって、そこらあたりに落ちているタバコの吸い殻集めて吸って頭がクラクラしたのも、いい思い出です。そういう時代でした。」「八幡平の山へ行った帰りの車でウィスキーを飲んでいい気持になっていたら、途中から女優さんみたいに綺麗な女の人が乗ってきて向かいに座りました。こっちは汗臭いし、山から降りた姿かっこも失礼にあたるんじゃないかと妙に気になり、ひたすら恥ずかしかったのを今でもよく覚えています。当時の若者は純情でした。」(談)

(注1) 駒ツの老木 最近まで日帰り温泉館の露天風呂の脇にあったが、平成23年に突然枯れて危険な為、残念ながら伐採した。

(注2) 材ヤマガラの老木 樹齢不明、網張ビジターセンター前に現在も健在で、開花を楽しみに、はるばる東京から来られる方もいる。

(注3) 現在の「切通し」周辺 (注4) アオヘビ (注5) 3.6mの柱

瀬川さんの友人でパークボランティアの広野 孝男さんの御自宅でこのお話を伺いました。その朴訥で優しい雫石訛り口調を紙上で再現できないのが残念です。その後、体調を崩し入院されたと伺いました。一日も早いご回復を願っております。

## 環境省盛岡自然保護官事務所からの報告



### 登山シーズンの始まり

山シーズンの到来、盛岡事務所管内にある主要三山では5月24日に八幡平で、6月1日に秋田駒ヶ岳で、7月1日に岩手山でそれぞれ山開きが行われ、シーズン中の登山の安全を祈願する祝詞や玉串奉奠がとりおこなわれた後、山頂を目指してまだ一部には雪の残る道を歩きました。併せて本格的な登山シーズンの開始に先立ち高山植物の盗採の防止を啓発するパトロールを関係機関の協力のもと各山で実施しました〔八幡平(6月23日)、秋田駒ヶ岳(6月26日)、岩手山(7月10日)〕。

歩道沿いではイワブクロ、イワカガミ、コマクサ、シラネアオイ、チングルマ、ヒメシャクナゲ、スミシなど多くの高山植物を観察することができ、岩手県の山々の多様さを感じました。



盛岡自然保護官事務所 河村 俊彦

# 自然観察会報告

## 5月23日 「新緑の滝/上で野鳥との出会い」



・渓谷沿いの鮮やかな新緑の中で次から次に登場する虫、鳥、両生類、花のすべてを解説してくれたのが日本野鳥の会の伊達功さん。国立公園の中でも第一級の景勝地に二十六名が集合。

## 6月6日 「初夏の七ツ森自然観察とスケッチ」

・八ヶ月の幼児から八十歳まで十名が参加。亀山喜作さんが植物のお話、広野孝男さんがスケッチの指導と内容の濃い一日、「久しぶりに花と対話できました」との感想が。



## 6月20日 「初夏の千沼ヶ原の魅力」



・サブテーマは「写真教室」。花の写真で有名な工藤宏さんを講師に迎え、一齐に咲き誇る湿原植物の撮影を満喫しました。帰りの天候は一転して豪雨。ボランティアさん達の懸命のサポートで無事に帰って来ることができました。三十六名の参加。

## 7月5日 「岩手山の花紀行」

・山岳ガイドの米澤邦彦さんが、花を紹介しながら山の歩き方をアドバイスしてくれました。御神坂コースは、植生や火山地形の魅力がたっぷりという説明に納得。総勢三十名。



## \*インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

ハーフトラップとライトトラップと二つの仕掛けでじっくり観察

## 「網張の森・夜のいきもの観察会」

8月8日(土)

網張ビジターセンター集合

19:00~20:30 定員20名

講師 コウモリの保護を考える会

&

三井 秀男 氏(岩手虫の会)

参加費 大人500円 小学生300円



小岩井農場まきば園と盛岡市子ども科学館との連携行事

## 「澄み切った秋の網張星空観察会」

9月13日(日)

網張温泉スキーセンター集合

19:00~20:30 定員20名

参加費 大人500円

小学生300円



●現在開催中の網張ビジターセンター企画展

●7月1日から8月31日までビジターセンター展示コーナーにて

## 東北アクティブ・レンジャー写真展



「うちの子になにか!？」 燕鳥  
八戸自然保護官事務所 中居巧貴

東北各地のアクティブ・レンジャー達が日常業務の中で感じた美しい東北の四季の風景、いきものたちの様子を集めた写真展を開催します。



夏の暑さを一瞬忘れさせてくれるような自然の粋な演出でした。奥入瀬  
十和田自然保護官事務所 畑中亮輔

## モモンガのつぶやき

四年前の夏、ビジターセンターの前でアキアカネを追いかけ懸命に虫取り網を振り回している小さな男の子がいました。その男の子は、それから毎年のようにビジターセンターに顔を出し、そのたびに、いろいろ虫の話をするようになりました。

この前、出会った時、男の子は真剣な顔で、こう尋ねました。

「ビジターセンターで働けるようになるにはどうしたらいいの?」

東京に住む「はると」君、今年も

もうすぐ君の来る季節がやってくる。(たくちゃん)



## 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 2, 427人 ◆ 6月 1, 778人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 10.0℃ ◆ 6月 11.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail: [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時